



アセスメントってなんのこと？



A. それぞれの課題の明確化、のことだよ。

利用者との契約に続いて、サービスを提供するために「アセスメント」を行うよ。
利用する子どもの、生活全体の解決すべき課題を導き出して、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)を作るためなんだ。
利用者が相談支援事業所を利用しているんだったら、障害児支援利用計画っていうものがあるので、それを基に個別支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成するよ。

障がい福祉事業では、個別支援計画をもとにサービスを提供する、ということになっているんだ。なので、個別支援計画がない段階では、原則としてサービスを提供することができないんだね。個別支援計画作成のもとになる作業が「アセスメント」なんだよ。

アセスメントっていうのは、利用者や家庭の情報、環境などの利用者の状況の把握、身体的能力や日常生活の状況、希望する生活や課題などを確認し把握することをいうよ。
まずは児童発達支援管理責任者が話す前に、利用する子どもと保護者の話を聞く、ということが大切なんだよ。
このアセスメントをもとにして、個別支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成するので、とても重要かつ大切な作業だよ。

ここで集める情報は種類が2つあるよ。
ひとつめは、子ども自身によって表現された感情や意見で、これを「主観的情報」というよ。
ふたつめは、観察、測定、推測されたもので、これを「客観的情報」というんだ。
このふたつの情報を分析していく必要があるんだ。

保護者に、基本的な情報を書き込んでもらうフェイスシート(face seat)、というものがあるし、主治医の意見書という情報の山、もあるよ。
これらをもとにして、様々なことをいろいろな角度から情報として集めるんだ。
その、集めた情報から、「できる活動」と「している活動」とのズレを見つけていくんだね。
現実と目標のギャップを明確にして、目標を見つけ出す、これを「アセスメント」っていうんだよ。
その上で、障がいのある子どもの発達を支援するのに適切な内容になっているかを検討するんだ。
主観的情報があるので、当然だけど情報の解釈には個人差が出てくるね。
この個人差を最大限に考慮して、個別支援計画の原案を作っていくよ。

聞こえたり見えたりしているもので解ることが多いと思うだろうけど、それだけでは不十分なんだ。言葉で伝えきれていないもの、見えていることの奥にあるもの、を「アセスメント」で探していくことがとても重要なんだ。

大切なものは目に見えない、って星の王子様でも言っているよ。

利用する子どもや保護者の「困っていること」を「どうしたいのか(してほしいのか)」「どうなりたいのか(なってもらいたいのか)」を明確にして把握していく作業になるんだ。

これがアセスメントの最終段階で、いわゆる「課題の抽出」と呼ばれるものだよ。

これらの意向に対して、なにが出来るのか、どこまでやれるのか、という助言を子どもや保護者に伝えながら、みんなの意見をすり合わせていくんだ。

そうして[どんな支援が必要なのか](#)129、を導き出していくんだよ。

これらは[児童発達支援管理責任者](#)の責務なんだ。

また、アセスメントは面接にて行われることが義務付けられているので、必ず子どもや保護者と会って話をする必要があるんだ。

電話やメール等で済ますことはできないんだね。

行ったアセスメントの内容や面接日などの記録は、必ず残さなければいけないんだ。

アセスメントの面接では、利用者や保護者に対して十分な説明をして理解してもらうことも必要なんだよ。

[《MENU》](#)

[《勤務体制の確保ってなに？](#)

[サービス提供記録ってなに？》](#)

2021-06-14 掲載